

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに次のステップへ向けて取り組む目標を職員一同で話し合いながら作成します。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	標達成に向けた具体的な取り組み内	目標達成に要する期間	目標達成状況(任意)
1	14	声かけ及び動作介助過多による入居者の意欲・行動阻害の可能性がある	入居者の自助効力を発揮できる	1)入居者の活動観察 2)できることへの見守り 3)できることへの賞賛 4)心身の未充足におけるケアの確保	8 か月	H26年1月～4月にかけて、精神症状悪化の利用者が4名出現。この現状により⑭の取り組みに時間を要する。抗精神薬処方増量等により、各利用者の精神安定が図れた4月中期頃より、達成目標に向けて取り組む。介護計画にも立案し、一人ひとりのできる力の発揮・可能性を観察する。結果、車椅子利用の92歳女性(歩きたいという意欲の表出あり)リハビリを具体的なものとして取り入れ移動動作の向上が確認される。77歳男性尿失禁・放尿が頻繁にあったが、トイレの場所確認を都度に行うことによって、現在リハビリパンツから布パンツに替え、尿失禁殆どなく経過している。また家事(清掃・食器の後片付け等・洗濯たたみ等)において、声かけのみ行い作業を終えた後、再度スタッフがサポートする状況を作り、役割における充足度が増すように関わりを持っている。利用者から「しよか」「置いとったらいいわえ」「手伝おうか」等の声を聴く事が多くなってきている。継続とする。
2	15	認知の進行が顕著にあり、「できない」ことへの認識が強く、入居者の行動抑制をスタッフが行っている可能性がある	入居者が食事における一連の部分的な家事が、スタッフと共にできる。	1)個人の食事のペースを把握する 2)食事行為が止まった時に声かけし、必要に応じ食事介助を行う 3)調理を楽しむ場面の提供 4)お盆拭き・テーブル拭き・お膳の準備をスタッフと共に 5)野菜の収穫をスタッフと共に う。	8 か月	各利用者の食事状態を把握し、時間経過に伴う疲労度及び箸止まりが出現した状態にて部分的介助を実施している。利用者によっては、自らが「食べさせてや」という声あり介助を行っている。また声かけにより、共に食材料を切る 食器を並べる等できる利用者がある。一定の利用者について、野菜の収穫については、スタッフと共に畑に出掛け、収穫と共に草引きをする等、自らが自発的に役割を担うことが可能である。継続とする。